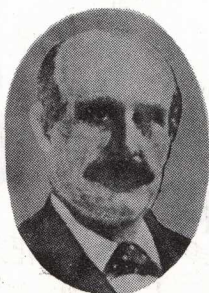


留萌市史〜13

動きだした 留萌港づくり



C・S・メーク

とを言っていた。
「外人は目先がきくともいうのか、明治の初めごろから古丹の沖で水深を測ったり、浜辺（留萌北岸）に掘抜井戸のような深い穴を掘っていた（海底地質調査のボ

波のうねりが小船の船先に白く砕けて、船の動揺もひどい。乗っているのは、船頭人夫などの他に外人一人と日本人技師が一人。細紐をたれて水の深さを苦心して測っている。村人はもの珍しげに見物していたが、やがて自分の仕事におおの戻って行く。その中の一人が後年、こんなことを言っていた。

to carry out more smaller works for the prevention of flooding on the above of the lagoon when the entrance is blocked up with sand or ice a circumstance that, as I have already said, frequently occurs.
As the works in question however would paralyze none of the nature of land drainage thus harbour works I have not gone into the matter in this report. In any case I would recommend that careful tidal observations extending over six months be made both in the lagoon and in the sea commencing early next year!
I now come to the West coast and with the exception of the Teshio mouth, to which reference has already been made, there seems to be no place suitable for the construction of a moderately large harbour until Ransel is reached. Ransel is very favourably situated both as regards natural advantages of site and internal communication and I am strongly of opinion that between the Teshio and the Ishikari there is no place equal to it to fulfil all the requirements of a trading harbour as pointed out in the first portion of this report.
The bay of Ransel has good anchorage ground and is well protected from the north, and works there can be so formed as both to shelter a small area of anchorage in the bay as well as the entrance to the river inside which quays can be built for trading purposes.
The deep water in the bay approaches close to the present river entrance while the river itself offers advantages for inland communication being in its present state navigable by boats for some distance from its mouth and it is enable I should say of easy improvement.
A harbour at Ransel would provide a port for shippers, in addition to other produce, of the coal which has I am informed been discovered in the vicinity of the upper portion of the river.
The works proposed for Ransel are shown on Plan No. 11, and consist of an outer or Western breakwater for sheltering the anchorage ground and the river entrance from Wintery gales, and also of a rough stone barrier or jetty projecting into the bay in a Western direction in order to prevent the sand drift from working into and filling up the sheltered area. The river entrance I propose to straighten and deepen and also to construct an inner harbour adjoining the entrance having an area of about 10 acres and a depth of 20 feet at low water and provided with quay walls for the convenience of vessels.
Mashiki is another of these places at which the existing trade is

■小説・随筆 女の顔 平 宮田
岩弓枝／おばんです 輝／落語選集＝とんちこつ編 今村信雄／欲望の海 津村節子／妻と呼ばれるための28章 草柳大蔵／犠牲 三浦朱門／父広津和郎 広 津桃子／表象詩人 松本清 張／星と祭 井上靖／幻の花たち 吉行淳之介／黒い ヒマラヤ 陳舜臣／不連続 殺人事件 坂口安吾／赤い 渦潮 早乙女貢／魚に河は見えない 吉川英治／風を見た人 水上勉

■一般教養・実務 人間の死にかた／図説家族問題／歴代天皇記／狐狸狸日本／わわしい女たち／新日本紀行・北海道編／中国雑学事典／きもの本／日本教について／商業文の書き方

■図書館3月の休館日
日曜日・4日・11日・18日・25日・31日
21日〈春文の日〉は休館いたします。

メークのこと

明治二十年六月、北海道庁の要請で来道し、各港湾修築に一大示

うことを聞いた。
また、小平しべ（小平町）の山奥にも石炭の山を調べにきていた外人は三年に一度ぐらいは、この辺にきていたそうだ。」
町史の中にメークの来る前に、米人・デーが当地を実測した記事があるが、この人は開拓使備のMSデーという米国大尉である。

メークの報告書

ーリング？
「彼等が言うのには留萌の浜はどこまで掘っても泥なので築港はできず、増毛は海底が岩盤だから船入間が堀れぬ、とい

唆を与えた。
結果としては、メークの設計が当時の状況に適應するようになっていたが、将来の発展に対する見通しに、やや足りないものがあり実現を見なかった。
彼の第一レポートの中に「天塩川から石狩川までの沿岸中港湾修築の地は、まさに留萌が最適地である。」という調査報告の内容がいかに住民の港湾修築への意欲高揚に益したかはかり知れない。
次いで明治二十三年、東大教授広井勇の調査が行なわれ、本格的基礎固めができて、一層自信を持つようになった。
明治二十四年、留萌村の有志、山本仁三郎・中川宇作・五十嵐綱治ら数十名が連署し、築港の請願書を第二帝国会議に提出し、上京運動に直接参加したのは、五十嵐綱治・佐賀庄五郎、戸長であった伊山徳次郎の三人である。
留萌港湾史の第一頁を飾るものは実にこの請願書の提出であった。そして住民としても具体的な方向を決定した。
明治二三年ごろの留萌は人口

五百人たらずである。
また、二十一年には、すでに道庁長官に対して、市街地計画のことが陳情され、二十三年に実施される運びとなった。
明治二十四年七月、札幌北新堂の石刷りとして発見された「留萌新都市街全図」をみると、当時としては精密な計画が樹てられていることがわかる。
したがって、二十四年の第二帝国議会に対する留萌築港の請願書提出も、メーク・広井両調査報告に刺激されたことはむしろであるが、ただ無計画に遂行されたものではない。

このことは、朔北の一寒村留萌（人口約百人）の企画としては、実に驚嘆に価する。
しかし、港湾施設の設備は経済上・交通上から必要であることはわかっていても、設備を遂行する時期には達していなかった。
当時の急務としては、錨泊を安全にして貨物や旅客の揚卸を容易にすること、海難の遁避にあつた。

明治二十九年、小平しべ田中炭鉱支配人の倉島弥平が、オピラシベ炭山調査の際「将来、石炭を輸出する時には留萌港と考えているので、ぜひ修築を」と力説し、一層村民の注意を促した。